

笹川保健財団 地域啓発活動助成
助成番号：2022－008

2023 年 3 月 5 日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜 多 悦 子 殿

2022 年度笹川保健財団地域啓発活動助成
活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

「訪問看護ステーションが実施するまちなか保健室 ACP（アドバンス・ケア・プランニング）勉強会」

所属機関・職名 一般社団法人いいケア研究所 訪問看護ステーション Benny's

氏名 二見 典子

1. 活動の内容・実施経過

この活動は、①さまざまな職種や社会的背景の参加者が、各々にとっての ACP を考えるきっかけとなる ② ACP が当事者の自発的プロセスであるとともに、そこに関係する人との協働のプロセスであることを踏まえ、当事者の個別性、独自性を尊重するとはどういうことかを探求する。③訪問看護師が ACP について、利用者の独自性を尊重して、利用者やご家族、ケアチームと共に考えるプロセスを実践できる力をつける、ことを目的に年間 6 回の勉強会を開催（内、助成期間中は 4 回開催）した。

運営上の留意点： 毎回、会のはじめに、前述の①～③の目的と、この勉強会で「大切にしたいこと」（下表）を参加者で確認し合い、対話を重視した勉強会であることを強調した。開催方法は、Zoom を活用したオンライン開催で、不慣れな方には、初回は主催者の事務所に来ていただき使い方の確認をし、以降はご自宅からの参加とした。

開催概要：

開催日	テーマ	話題提供者	司会	Zoom 担当	参加者（市民）
2021/11/16（火）	アドバンス・ケア・プランニング （ACP）とは？（基礎 知識編）	二見典子 （看護師）		草島え	6 名
1 回目 2022/04/02（土） 13:30～15:30	超高齢者との ACP	二見典子 （看護師）	草島ゆ	草島え	12 名
2 回目 2022/06/（土） 13:30～15:30	ACP 市民の立場から	寺山泰郎 （市民）	二見	草島え 草島ゆ	13 名
3 回目 2022/08/06（土） 13:30～15:30	看護師へのインタビューを 通して、自身の看取り の体験を振り返る	杉園佐智子 （市民）	二見	草島え 草島ゆ	15 名
4 回目 2022/10/15（土） 13:30～15:30	決断を迫られる状況で 大事にすること	草島悦子 （看護師）	二見	草島ゆ 草島え	13 名
5 回目 2022/12/03（土） 13:30～15:30	依存症の方との関わり から学んだこと	草島 豊 （市民）	二見	草島え 草島ゆ	13 名
6 回目 2023/02/04（土） 15:00～17:30	もしバナしませんか？	太田 浩 （医師）	二見	草島え 草島ゆ	16 名

* 第 3 回～第 6 回開催が財団の助成で実施

大切にしたいこと

1. ACP 勉強会では、「あなたの大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自ら考え、また、あなたの信頼する人たちと話し合うこと」（厚生労働省人生会議 HP より）という ACP の定義を軸に、その意味や意義、自身の ACP について対話を通して考えます。

2. 対等で開かれた対話を心がけましょう

参加者は、職種を限定せず様々な経験をもった一市民です。看護師も参加しますが、社会的な立場や役割から自由に、対等の立場で議論できることを願っています。相手に対して尊敬の念を抱きつつ、対等な立場で、開かれた言葉で対話を試みましょう。

3. 聴くことから始めましょう

聴く人がいなければ対話は始まりません。対話の第一歩として、相手の語りに真剣に耳を傾けることから始めましょう。もちろん、すべての言葉に納得、共感する必要はありません。むしろ納得いかないところ、安易に共感できないところを糸口に発言を試みることで、対話を注意深く創り上げていきましょう。

4. 自由に発言しましょう

一つひとつの発言は、対話的探求への貴重な貢献です。空気を読んだり、他の参加者の評価を気にしたりすることなく、自由に発言しましょう。一人ひとりの生き方とそれを支える考え方が反映された見解、意見、ふとした疑問を大切にしましょう。

5. 参加者のプライバシーを尊重しましょう

すべての参加者が心を開き、安心して発言できるように、この会で知った個人情報を第三者に提示することはインターネット上も含めて控えてください。

会の進行と問いの設定：2 時間枠では対話が深まるのに時間が不足と考え、2 回目からは 2 時間半の時間枠で実施とした。10 分間の開会オリエンテーションののち、20 分間の話題提供のプレゼンテーション、その後、4-5 名のグループに分かれて、問に基づく対話の時間が、50 分、全大会が 50 分、閉会案内 10 分で概ね進行。問いは、事前に話題提供者と運営メンバーとで打ち合わせをして決めている。

問いの実例は、2 回目「最後は迷惑をかけないというのがあなたはどう思うか」、3 回目「家族として ACP にどうかかわりたいか?」、4 回目「あなたはどんな人に最期を託したいですか? それはなぜですか?」、5 回目「『医療』に関する『急な状況で決断を迫られる時』どんなことを考えるか? それぞれ（本人・家族・医療者）の立場から」、6 回目は、グループワークの後に参加者で問い「最後に近づいたとき誰かの役に立つとはどういうことか? 最後が近づいたときの尊厳とは? 家族が死を覚悟しているとはどういうことか?」をたて、対話した。

アンケート：毎回、会の終了後、参加者にメールでアンケートに回答していただいた。

2. 活動の成果

1) 参加者：一般市民と訪問介護・看護・診療従事者との参加者比率は、概ね 4:6 程度であった。参加人数は、今年度は、運営側が、オンライン開催での運営に慣れることを重視し、グループ討議が多くて 3 グループとなるように調整したため、最大 15 名程度として実施した。参加した方が、知人を誘うという方法で、新たな参加者が少しずつ増えていった。

2) アンケート結果から：一般市民と医療介護従事者がそれぞれの背景はありつつ、話題提供者の話を聞

いたあと、毎回、一つの問いについて、「自分事」として、対話を深めたことで、自分とは異なった考え方に触れたり、自分の持つ傾向や前提に気付いたりしたという内容の感想があった。医療・介護従事者としての見方と、患者家族の立場からの見方と、両者の経験が相互に語られ、対話で深められることで、それぞれにとって、新たな気付きも多かったとの感想が寄せられた。以下、アンケート結果からいくつか抜粋した。

- ・専門職の日常的なことが、非日常におかれた患者・家族にとって受け止める意味合いが大きく違うことに気づかされた。そのずれを少しでも縮めるためには、つづやきのなぜかを察することが大切で、時には周りの人たちや、さまざまな立場の人たちと関わることも必要ではないかと思う。

- ・身近な人との最後の時間の過ごし方に、真摯に向き合いたい、と改めて、思いました。

- ・想定とは異なる事が起こる、準備が出来ない状況が有る、としても、身近な人達が看取りについてどう考えて居るかに、折に触れ思いを馳せ、話題にして行こうと思いました。

- ・日常生活の頼む・頼まれるの積み重ねの結果として、「託す・託される」をもっと身近なこととして、捉えられるように心がけたい。

- ・印象に残ることは「誠実に向き合うことを心がけたい」「託されることは、代弁・代行すること」「親から託されたことから、子に託すことを考える時期にあること」を自ら気づかされた。

- ・人生の最期に「託す」事は避けられないと思われ、それならば、誰に何を託すのか。今更ながら、突きつけられたと感じる問いです。

- ・ACP というと、最期のケアに結びつきやすいですが、今回の「最後を託す」という言葉には人それぞれ様々な視点や意味があることを実感しました。私にとって「最後を託す」とはということなのか、勉強会の時は「私を代弁、代行する人に託したい」と考えていましたが、今は、私にとって「最後を託す」とはということなのかを改めて考えています。

- ・プレゼンテーションから現場の方々のプロフェッショナルが持っておられる苦悩を、改めて多くを知ることができました。社会を構成する人々にはそれぞれ「自分」の考え方があります。社会は日々変化しています。特に「家族」に関する考え方は激変しています。人生を営むについての基本的な価値観が、みんな個々に異なる多様な社会となって、世の中全体が「呻いて」いるようです。それだけに「わたし」はどのような人生を全うしたいかという考えの整理を若い時から、繰り返して考えておくことが大事かと思います。その意味で、ACP のセミナーに参加できたことはよかったと思います。改めて考える機会を与えられます。

- ・印象的な言葉が「関係を信じ合える中で責任と勇気が持てる」。これは ACP に限らないが、人生の重要な局面では重要になることだと思った。職業倫理や自分自身が大切にしている価値にふみとどまれるかどうか、そこのかかっているように思う。

- ・自分の最期のときの過ごし方は、経験によって大きく異なると思った。医療関係者は実際の医療ケアがどうなるか具体的なイメージをした上で、自分がどうありたいかを語っておられたのが印象的であった。そしてだからこそ、このようなカタチで他の方の話を聞くというのは非常に有益だと思った。誰かの話を一方的に聞く、話す、というよりもお互いに話すという環境の方が話し易いと感じ、実際の場面に於いても同様ではないかと考えた。

- ・もしバナゲームでは、他者との違いが明確になるためか、自分がなぜそう考えるのか、他の方はなぜそう考えたのかを問い、考えを深めたり気づかされることが多かった。

- ・他者の言葉を、聞き流すのではなく、もう一步問うことで、こちらが想像していたこととはニュアンスが異なる考えも聞け、興味深かった。その方の生き方に触れる感触があり、それが、良し悪しでなく個性・独自性ということ

ではないかと感じた。

3. 今後の課題

- ①ACP 勉強会の継続と開催方法：隔月程度の開催の継続、対面開催とオンライン開催の双方のメリット・デメリットの検討する。
- ②いろいろな立場の参加者で構成された会を維持する。
- ③事務局を機能させるための人材・資金の確保。
- ④地域の中で、この勉強会を共同企画できる、職域を超えた横のつながりを増やしていく。

4. 活動成果等の公表予定（学会、雑誌）

未定

報告を終えるにあたり、本活動助成を頂けたことで、訪問看護ステーションとしての事業を行いながら、この勉強会をやり遂げることができましたことを深く感謝いたします。